

第3回 2010年8月出発 参加者 ●上田 武さん、ホスト：韓国科学技術研究院

1. 応募したきっかけ

社会に出て働く前に、海外留学を経験しておきたかったというのが一番の理由です。当初、私は多くの友人知人が留学する中で、日本で、日本語で勉強するほうが効率が良いし、寂しい思いもしないと考えていました。ただ、経験せずに批判するのは良くないので、実際に自分の目で見て考えたいと思っていました。そして、多少の甘えが許されるという点で、学生の間に行っておきたかった、そのような背景で夏季短期留学プログラムを探しているとき、本プログラムを知りました。

本プログラムは、語学だけではなく、研究、しかも産業技術に関連した研究ができるという点で、私にとってとても魅力的でした。韓国という国にも興味がありましたし、金銭面での手厚い補助もあり、早速応募しました。

2. 事前準備

選考合格後、ホスト研究者とメールで連絡をとり、研究内容や日常業務、研究研修初日のスケジュールなどについて打ち合わせました。研究内容に関しては、概略を聞いたのみで、実際に行う研究は着いてから決めようということになりました。英語は試験を受けたり外国人と話したりしながら、今までより意識的に勉強しました。韓国語は入門書を購入し読みましたが、そのときは途中で挫折しました。あるいは JISTEC より案内のあった NHK 日本の、これから「日韓」の座談会に参加することで、日韓の歴史や企業の在り方、今後の関係などについて学びました。

3. 現地研修

私の行ったところは研究所でしたが、近隣の大学と連携しており多くの学生がいました。年齢層も幅広く、また多くの短期の学生や外国人があり刺激的でした。会話はほぼ英語で行い、時折日本語、韓国語を教え合いました。週に1度行うサッカーは大きな楽しみでした。

研究は、私の日本での研究に関連する屋内移動ロボットの自律移動に関するものを行いました。ホスト研究所では、開発中の移動ロボットがある研究グループに所属し

ました。移動ロボットのための地図生成アルゴリズム、探索アルゴリズム、自律移動アルゴリズムを開発し、実装しました。

4. この研修を通じて得たもの

まず、内容がどうあれ経験することができ良かったと思います。海外で勉強することの良さ、悪さについて自分なりに考えました。また、自分が不便な立場にある中での韓国人の親切さにふれ、私ももっと優しくなろうという気持ちになりました。さらに研究に関しても、現地の学生や研究者の方々と多くの議論を行い、良い成果を残すことができました。公私ともに今後も継続する関係を築けたと思っています。最後に、ハングルの読み方と多少の韓国語を覚えました。

5. 参加する人へのアドバイス

私の場合は、応募の段階でホスト研究室とのコネクションはありませんでした。そんな中で連絡を取って頂いた運営の方々にはとても感謝しています。そのため、研究室に行く前は、正直邪魔者なのではないかと心配していたのですが、研究所の方に韓国の学生にとってもいい経験になると言っていただき、安心したのを覚えています。

日本文化、特にアニメやゲームをよく知っていると、人気者になれるかもしれません。当初の私の予想以上に、これらは世界に進出しているようです。韓国の人もそこで覚えた日本語をよく話していました。

最後に、なれない環境からくる疲労に加え、夏でも気温が下がったりすることがあるので、体調管理には気をつけましょう。

